し、此理をもつて陽火を鎭むるため、水に表して水引幕といふ也、かるがゆゑにはる時も北より張出し、北にてはりをさむ、北は陰にして水德を主り、易によりては坎なり、尤絹の色は黑なるべけれども、是も後世風流の好みより色々の絹を用る也、

○按ズルニ、此ニ陽火ヲ鎭ムル爲ニ水ニ表シテ水引幕トイフ也トアルハ俗說ナリ、水引ノ解釋ハ帽額ノ條ニアリ、

〔劇場新話〕一引幕。　舞臺の上に横にはりがねを渡し引張る也、明る時は左の上の方に絞り置く、京大阪の幕は布目を横に縫合せたるもの也、江戸にては布目を竪に縫合せる也、顏見せ春狂言などの時は、ひゐきの連中よりいろ〳〵仕出しの進物幕也、常には中村座は紺柿白の三色、市村座と木挽町は紺柿綠の三色を用ゆ、幕引といふものありて勤之、

〔西宮記正月上〕臣家大饗

延長八年正月四日、吏部記云、左大臣大饗云々、唯最屋北邊立障子、不施簾、立休幕、在酒部平張西、相違云々、

〔榮花物語十七音樂〕御堂供養、治安二年七月十四日とさだめさせ給へれば、略○中　えばしありて春宮の行啓あり、略○中　さて御やすまくにいらせ給ぬ、

〔中務內侍日記〕三月元年正應○十五日、御卽位行幸の儀式、關白殿左大將以下供奉の人々、めづらしく面白し、略○中　主上見○伏　御裝束めし改めて、還御のぎになるほどに、この御やすまくへいらせ給ひぬ、

〔禁秘御抄上〕殿上

六間、略○中　春冬有垂幕、夕陽之時下釣蔀、

〔侍中群要三〕出陣事